松坂屋 史料室 企画展 Vol.4

松坂屋を彩ったスターたち

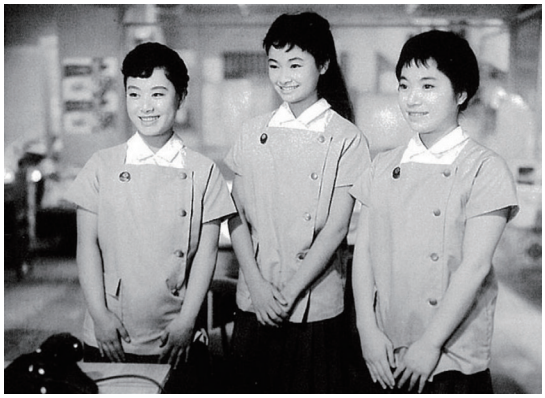
平成23年1月2日(日)→2月27日(日)

松坂屋は、早くからPR誌やカタログに芸能界のスターを積極的に起用するなど、つねにイメージ戦略でも百貨店業界をリードしてきた。また、女優のあこがれの職業に松坂屋が選ばれ、女性社員に扮したスターが芸能誌のグラビアを飾ったりもした。さらには映画の黄金時代、東京の名所として何度か映画の舞台にもなっている。

ここでは、松坂屋と関わりの深いトップスターたちの肖像と一緒に、松坂屋の事績をたどる。併せて、かつて松坂屋に在籍し、その後、他の業界で輝くスターになった人たちも紹介する。

東宝「ゴジラ」(銀座店、昭和29年)

昭和29(1954)年の東宝映画「ゴジラ」第1回作品では、上陸したゴジラが銀座のビルの群れをなぎ倒し、怪光線で焼きつくしていくが、このとき銀座店も破壊された。松坂屋が銀座の象徴として認識されていたことがわかる事例である。

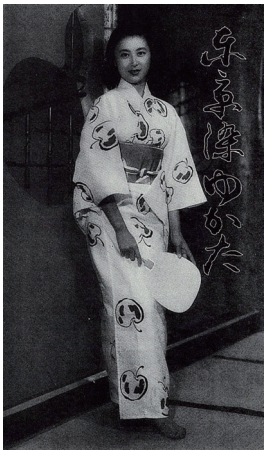


東宝「ロマンス娘」(銀座店、昭和31年)

昭和31(1956)年の東宝映画「ロマンス娘」では、人気絶頂の美空ひばり、雪村いづみ、江利チエミの3人娘が、銀座店のアルバイト役で出演した。店内各所が登場し、また包装紙もそのままと、当時を知る生きた資料にもなっている。

新選組副長・
土方歳三(江戸時代)

新選組副長・土方歳三は、弘化2(1845)年、11歳のときに上野店に奉公に上がったとされる。後年、「歳さんは物差し使いがうまい」と近在の人たちから噂されたのは、松坂屋での実地教育のたまものと思われる。



『新装』夏号(昭和27年)

昭和27(1952)年夏の『新装』では、「東京染ゆかた」のグラビアに松竹の看板女優・岸恵子を起用した。同26(1951)年新春号には銀座店のお得意様として岸のスナップが載っている。岸主演の「君の名は」が大ブレイクしたのは、昭和28(1953)年のこと。

大映「地獄門」(昭和29年)

「第7回カンヌ国際映画祭」(昭和29年)でグランプリを受賞した大映「地獄門」の衣装の調製を担い、寄贈したのが松坂屋京都仕入店。これらの衣装は、「第27回アカデミー賞色彩映画衣装デザイン賞」獲得の原動力ともなった。主演の長谷川一夫は、銀座店のお得意様でもあった。

『新装』会社創立50年記念秋の特集号(昭和34年)

百貨店を代表するPR誌といわれた『新装』は、昭和10(1935)年の創刊。戦時中一時休刊したが、昭和26(1951)年に復刊した。「会社創立50年記念」(昭和34年)の特集号では、大映の女優・山本富士子を表紙に起用し、煌びやかな世界を演出した。

Matsuzakaya 松坂屋・名古屋
〒460-8430 名古屋市中区栄3-16-1
TEL:052-251-1111
www.matsuzakaya.co.jp/nagoya/